

マイワシ

生態的特徴等

【生態】

日本周辺に広く分布し、季節により大きく回遊する。太平洋側では春から夏にかけて房総～三陸沖を北上し、道東周辺で夏を過ごした後、秋から冬にかけて三陸～房総海域を南下する。成魚は関東近海から四国沿岸で産卵するが、未成魚は常磐～房総海域で越冬する。産卵期は11～6月で盛期は2～4月である。動物プランクトンを食べて成長するが、成魚は植物プランクトンも食べることができる。2歳でほとんどが成熟し、寿命は7歳程度である。成長に伴って呼び名が変わり、ヒラゴ（体長：10 cm前後）、小羽（12～13 cm）、小中羽（14～15 cm）、中羽（16～17 cm）、ニタリ（18～19 cm）、大羽（20 cm～）と呼ばれる。

【漁法と盛漁期】

茨城県では、主にまき網で漁獲される。晩秋～初冬は産卵に向かう中羽～大羽、冬～春は未成魚越冬群（小羽～小中羽）、晩春～初夏は産卵後の中羽～大羽の漁場が形成される。

【利用】

刺身や塩焼のほか、丸干し、缶詰、魚粉などの加工原料や近年は冷凍輸出品としても利用されている。栄養豊富で、血液をサラサラにして成人病予防に役立つEPAやDHAを多く含んでいる。産卵後に北上回遊を始めた魚は脂がのり、特に梅雨時期に漁獲されるものは「入梅イワシ」と呼ばれている。

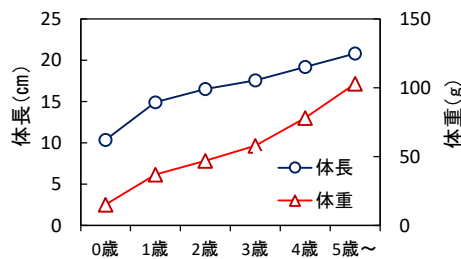


図1 マイワシの成長

資源は高水準・増加傾向

水準



(国)

動向



(国)

（漁獲量）マイワシは数十年スケールで大規模に変動する資源であり、S50年代に急増した漁獲量はH元年まで200万トンを超えていたが、その後急減してH17年には約8千トンとなった。H22年以降は増加傾向に変わり、資源量の増加に伴ってまき網漁業の漁場は道東沖まで拡大し、R5年は44万トンとなっている（図2）。

（加入量）冬春季に常磐～房総海域で漁獲される未成魚越冬群（1歳魚）の漁獲状況において、H13～21年級群はほとんど加入がみられなかったが、H22年級群以降は良好な加入が継続している。

（水準と動向）国の資源評価（R6年度）によると、資源水準は「目標管理基準値を上回る」、資源動向は「増加」とされている（図3）。

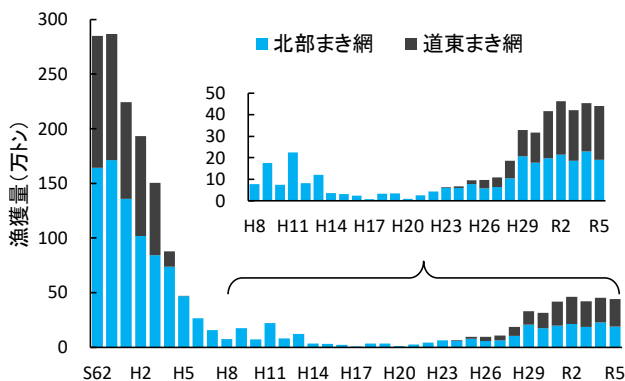


図2 マイワシ漁獲量※1の推移

※1 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値（北部まき網）および道東沖で操業するまき網の漁獲量で、北海道まき網漁業協会の集計値（道東まき網）

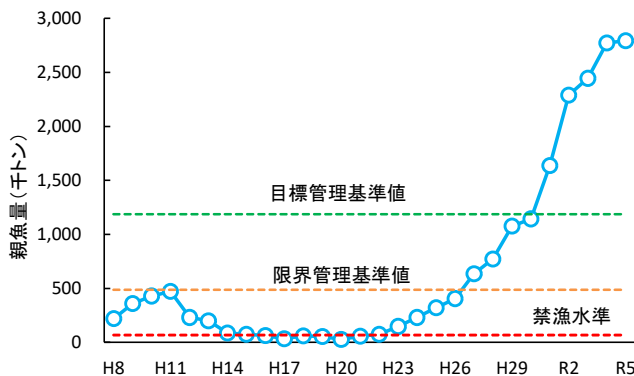


図3 マイワシ太平洋系群の親魚量と管理基準値※2

※2 新たな資源管理（MSY）に基づく管理基準値

【全国の漁獲動向】

・茨城県は全国第1位（R5農統）、2位は宮城県、3位は鳥取県

評価期間：令和5年1月～12月 更新日：令和7年3月25日

引用：古市 生・由上龍嗣・東口胤成・上村泰洋・西嶋翔太・渡部亮介・井須小羊子（2025）令和6（2024）年度マイワシ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価。水産庁・水産研究・教育機構，東京，68pp，https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_01.pdf。